

学研・高大教育フォーラム 2019  
2019年8月3日・4日

# アクティブラーニング型授業のための の大学図書館の役割

1

三重大学 地域人材教育開発機構 大学図書館・学習支援部門  
附属図書館 研究開発室

長澤 多代 (NAGASAWA Tayo) [nagasawa.tayo@mie-u.ac.jp](mailto:nagasawa.tayo@mie-u.ac.jp)

# 本日の発表内容

1. 大学教育改革と大学図書館
2. 情報リテラシー教育
3. ラーニングコモンズ
4. 国内外の事例
5. 高校の教育と図書館への提言



# 大学教育改革と大学図書館



## 1.1 2040年頃の社会変化の方向

SDGs（持続可能な開発のための目標）

Society5.0・第4次産業革命

人生100年時代

グローバル化の進展

地方創生



予測不可能な時代に、直面する課題を解決することができるのは「知識」とそれを組み合わせて生み出す「新しい知」

（中央教育審議会, 2018）

## 1.2 予測不可能な時代を生きる人材像

普遍的な知識・理解

+

汎用的技能

基本的な認知能力：読み書き計算，基本的な知識・スキルなど

高次の認知能力：問題解決，創造性，意思決定，学習の仕方の学習など

対人関係能力：コミュニケーション，チームワーク，リーダーシップなど

人格特性・態度：自尊心，責任感，忍耐力など

+

数理・データサイエンス等の基礎的な素養

社会における課題の発見とこれを解決するための  
学問の成果と社会との結びつきを推進する基盤

(松下，2010/中央教育審議会2012/中央教育審議会，2018)

## 1.2 リテラシー

### リテラシー(literacy)

特定のコミュニティで生活するために必要な読み書き計算の能力

### 情報リテラシー(information literacy)

情報が必要なときに、それを認識し、必要な情報を効果的に見つけ出し、評価し、利用する能力

### メディア・リテラシー(media literacy)

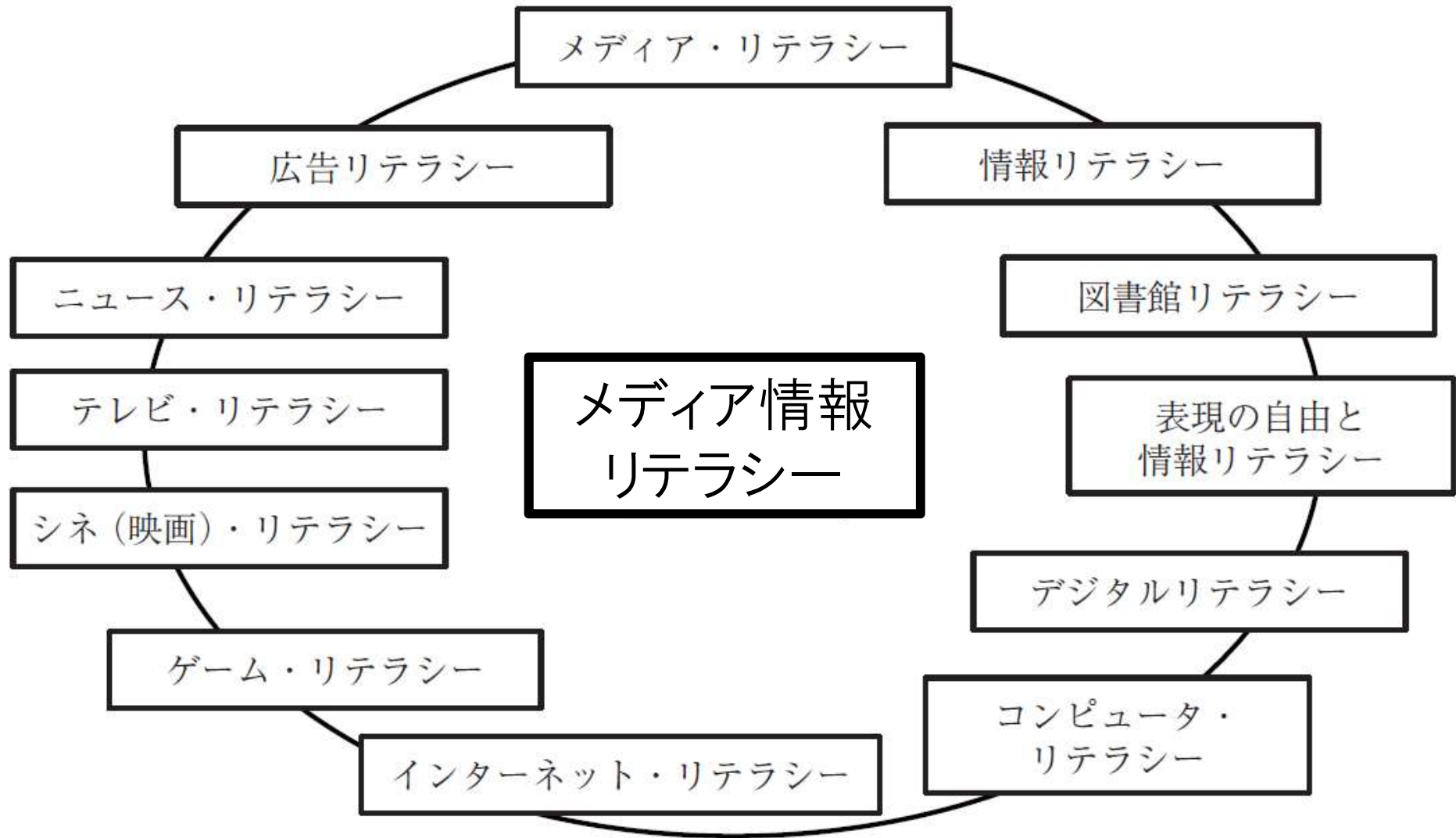
新聞やテレビなどの内容を正確に読みとりマスメディアの本質や影響について幅広い知識を身につけ、批判的な見方を養い、メディアそのものを創造できる能力

### メディア情報リテラシー(Media and Information Literacy)

情報リテラシー + メディア・リテラシー

(野末, 1999 ; 国立大学図書館協会, 2015, 和田ら, 2013)

## 1.2 メディア情報リテラシー



## 1.2 ユネスコ「メディア情報リテラシー5原則」

第1原則(持続可能な開発): 情報、コミュニケーション、図書館、メディア、テクノロジー、インターネットは、他の情報供給源と同様に、市民の批判的な取り組みと持続可能な開発のために用いられる。それらは同等の地位にあり、他により関係性あるものではなく、かくなるものとして扱われるべきである。

第2原則(創造・表現と人権): いかなる市民も情報や知識の創造者であり、誰もがメッセージを持つ。市民は新しい情報や知識にアクセスし、自身を表現できなければならない。メディア情報リテラシーは、女性と男性の違いを問わずすべてが等しく身につけるものであり、人権の中核となる。

第3原則(バイアスと透明性): 情報、知識、メッセージは、常に中立的な価値を持つものではなく、バイアスを持っている。メディア情報リテラシーは、その概念化、利用、活用において、透明性を保ち、すべての市民が理解できるものでなければならない。

第4原則(コミュニケーションへの権利): すべての市民は、新しい情報、知識、メッセージを知ったり理解したりするだけでなく、コミュニケーションしたりすることを求め、男性であっても女性であっても、特段の意識を持つことなく、自身が行っていることを承認し、表現する。女性であっても男性であっても、その権利は決して損なわれない。

第5原則(生涯学習): メディア情報リテラシーは一度で身につくものではない。それは生きたダイナミックな経験であり、プロセスである。それが知識、スキル、態度を包含するとき、また、情報、メディアおよびテクノロジーのコンテンツへのアクセス、評価、利用、生産、コミュニケーションにつながるときに、達成することになる。





## 1.3 大学生の学修時間：単位制度

1 単位は①と②の合計で標準45時間の学修を要する学修内容(大学設置基準 第21条)

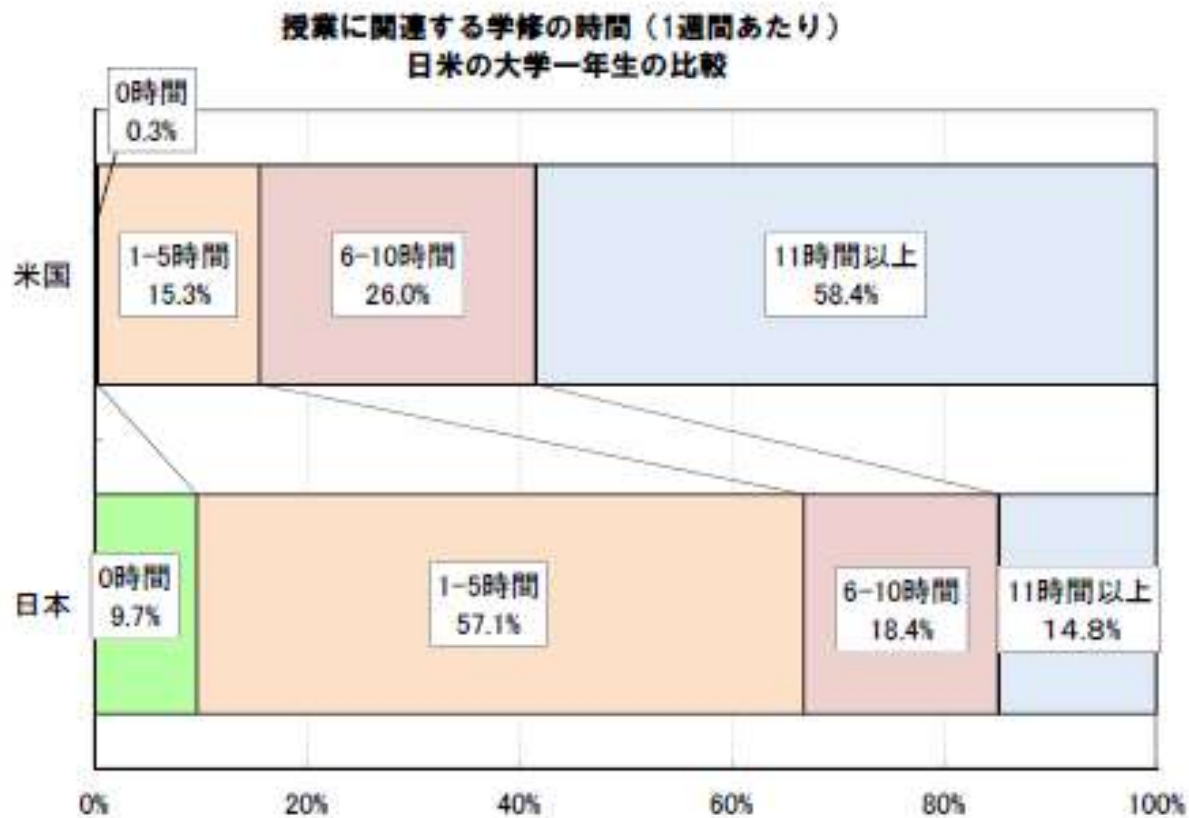
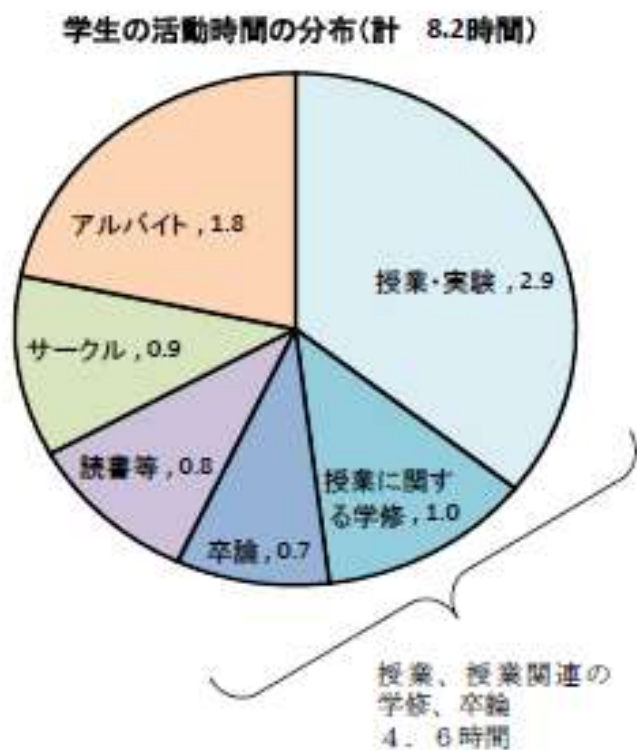
- ① 教員が教室等で授業を行う時間
- ② 学生が事前・事後に教室外において準備学修・復習を行う時間

45時間＝1週間あたりの学修時間に相当

学修：単位制にもとづく正課教育（授業）の枠内に限定した学習

学習：学修の枠をはみ出る学習

# 1.3 大学生の学修時間：学生調査



東京大学 大学経営政策研究センター 『全国大学生調査』(2007, サンプル数44,905人)  
(中央教育審議会『新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて』2012)

## 1.4 教育方法の改革：アクティブラーニングへの転換

### アクティブラーニング型授業への転換

授業のための事前の準備 資料の下調べや読書, 思考, 学生同士のディスカッション, 他の専門家等とのコミュニケーション

授業の受講 教員による直接指導, 教員と学生, 学生同士の対話など

事後の展開 授業内容の確認や理解の深化のための探求等

+

事前の準備, 授業の受講, 事後の展開をとおした  
能動的な学修過程に要する十分な学修時間の確保が不可欠




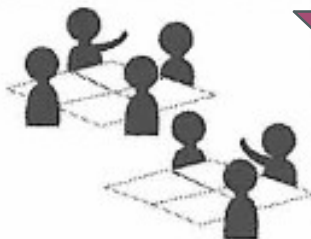
「主体的な学修のベースとなる図書館の機能強化」\*

## 1.4 アクティブラーニングの一般的特徴

- 学生は、授業を聴く以上の関わりをしている
- 情報の伝達より学生のスキルの育成に重きが置かれている
- 学生は高次の思考(分析, 総合, 評価)に関わっている
- 学生は活動(例: 読む, 議論する, 書く)に関与している
- 学生が自分自身の態度や価値観を探究することに重きが置かれている
- 認知プロセスの外化をともなう

「行為をすること + 行為について振り返ること」  
をとおして学ぶこと

# 1.4 アクティブラーニング型授業の類型 (溝上, 2016, p.36)

授業の形態・類型		授業の特徴	
伝統的授業	講義型	教師から学生への一方向的な知識伝達型講義。教師指導。	
	講義中心型	話す・発表するといった活動はないが、コメントシートなどを用いた教師-学生の双方向性を組み込んだ講義中心の授業。教師主導。	
アクティブラーニング型授業	講義+AL型	どちらかと言えば教師主導であるが。講義だけでなく、学生の書く・話す・発表する等の活動も組み込んだ授業。	
	AL中心型	徹底的に学習パラダイムに基づいた学生主導の授業。	

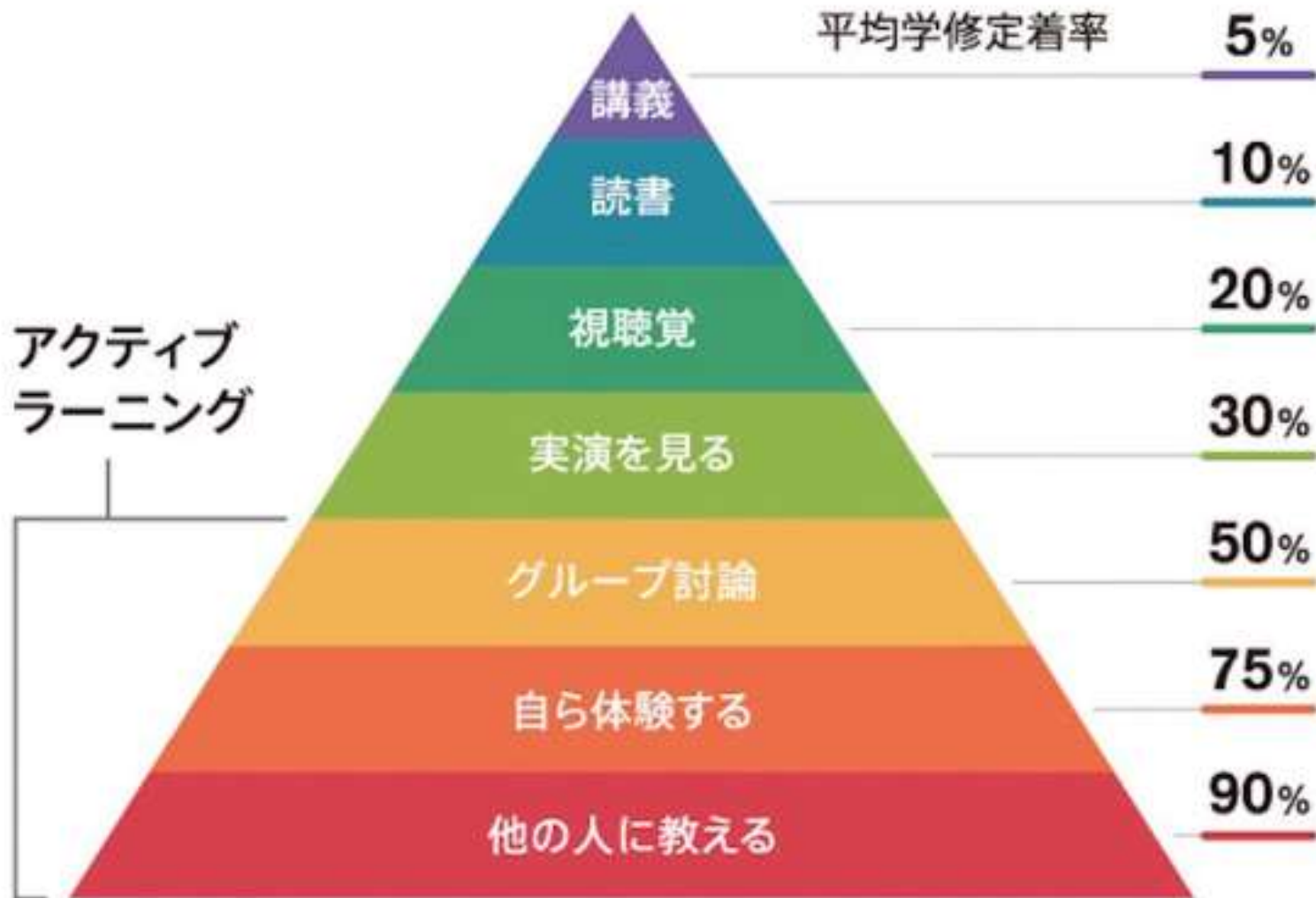
習得重視型

探究重視型

図 2-1 アクティブラーニング型授業の位置づけと類型

\*ALは「アクティブラーニング」を指す。

# ラーニングピラミッド



出典: The Learning Pyramid. アメリカ National Training Laboratories  
名古屋商科大学HP

学生はいつもGoogleだけを使っている。他の情報源を使うのは難しいようだ。

情報の探索法について学習しても、すぐに忘れてしまう。

信頼性の高い情報源を用いていない。

学生はインターネットだけを利用して、そのテーマについて最悪の情報源を利用してレポートを書いている。

自分で何も調べないうちに、外部の人に電話でいろいろとたずねてしまう。

教員が配布した資料だけを使用して課題を仕上げている。

## 1.5 大学図書館の役割

学修成果の向上

初年次教育科目における図書館ガイダンス  
教養教育・専門教育における情報リテラシー教育  
パス・ファインダー



授業外(教室外)の学修時間を確保するための学習支援環境の整備  
ラーニングコモンズ

FD(ファカルティ・ディベロップメント)等による教員の支援  
新任教員オリエンテーション  
教育開発のワークショップ



SD(スタッフ・ディベロップメント)等による専門性の向上  
学生の学習や教員の教育に関わる心構えと資質開発

文部科学省「大学図書館における先進的な取り組みの実践例」

[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/kaihatu/jouhou/1341374.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/kaihatu/jouhou/1341374.htm)(2015-11-11)





## 情報リテラシー教育



## 2.1 情報リテラシーの定義

- 高等教育の学びの場において必要と考えられる情報活用能力。課題を認識し、その解決のために必要な情報を探索し、入手し、得られた情報を分析・評価、整理・管理し、批判的に検討し、自らの知識を再構造化し、発信する能力。(国立大学図書館協会, 2015)
- 情報を振り返ることで気づきを得たり、情報がどのように生産され価値を持つようになるのかを理解したり、新しい知識を創造するときや学習共同体に倫理をわきまえて参加するときに情報を利用したりするのを包含する一連の能力。(ACRL, 2015)

## 2.2 『高等教育のための情報リテラシー基準（2015年版）』

1. 課題を認識する: 課題を認識し, その解決に必要な情報の範囲を定める。
2. 情報探索を計画する: 課題を解決するために必要な情報を合法的・社会倫理的に適切に, かつ経済的・効率的に探索する計画を立てる。
3. 情報入手する: 探索計画に基づき, 課題を解決するために必要な情報を適切・効率的に入手する。
4. 情報を分析・評価し, 整理・管理する: 収集した情報を批判的に分析・評価し, 情報を整理・管理する。
5. 情報を批判的に検討し, 知識を再構造化する: 整理した情報を批判的に検討することで自らの知識を再構造化する。
6. 情報を活用・発信し, プロセスを省察する: 社会倫理に則り, 合法的に情報を活用・発信し, 情報の受け手と適切なコミュニケーションを行う。また, 情報活用行動全体を省察する。

## 2. 情報探索を計画する

### 行動指標②

課題を解決するために必要な情報を合法的・社会倫理的に適切に、かつ経済的・効率的に探索する計画を立てる。

#### (構成要素)

2.1 情報の生産と流通の過程を知る。

2.2 情報の種類や特徴を把握する。

2.3 求める情報へのアクセスの方法や入手を支援するサービスを選択する。

2.4 情報を探索する際の合法性、社会倫理への適合性および経済的合理性に留意して適切な方法を選択する。

2.5 情報の適切・効率的な探索を計画する。

## 3. 情報入手する

### 行動指標③

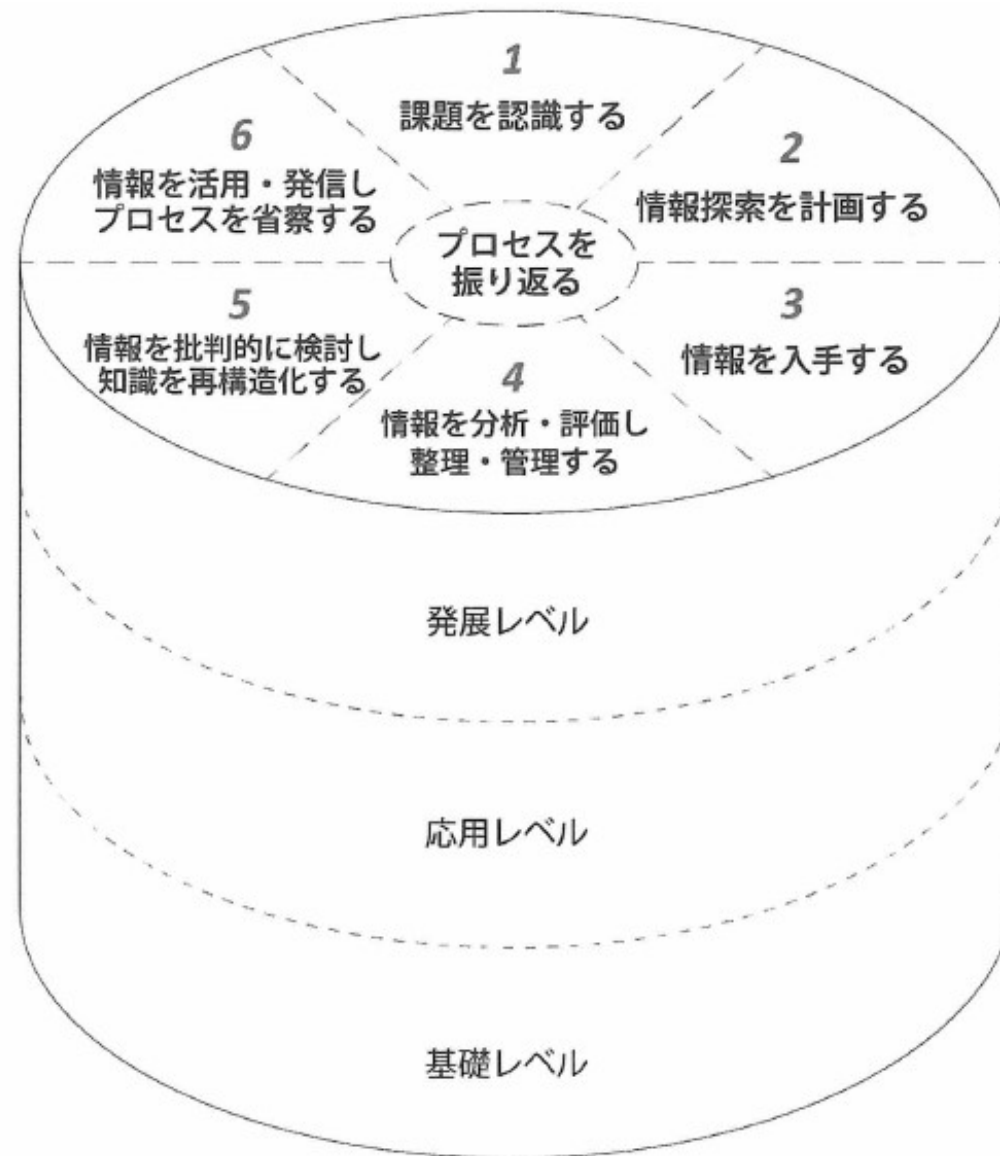
探索計画に基づき、課題を解決するために必要な情報を適切・効率的に入手する。

#### (構成要素)

3.1 探索計画に従って情報入手を支援するサービスを効果的に利用する。

国立大学図書館協会『高等教育のための情報リテラシー基準（2015年版）』抜粋

## 2.2 『高等教育のための情報リテラシー基準（2015年版）』



「情報活用行動プロセスの場面とレベル」(国立大学図書館協会, 2015)

## 2.3 情報リテラシー教育：図書館利用教育ガイドライン

定義：自立した情報利用者の育成を目的として大学コミュニティの全構成員を対象に体系的・組織的に行われる情報教育のこと。

領域1	<b>印象づけ</b> (図書館の存在・役割・機能)	ポスター, パンフレット, ちらし, オリエンテーション
領域2	<b>サービス案内</b> (設備の配置, サービスの種類)	図書館の見学ツアー, 館内のサイン, 学内の広報誌
領域3	<b>情報探索法指導</b> (情報資源の検索, 情報の評価)	科目関連指導(授業, ゼミ), 独立科目, チュートリアル,
領域4	<b>情報整理法指導</b> (要約・引用, 記録・発想法)	講習会, カウンターでの指導, パスファインダー,
領域5	<b>情報表現法指導</b> (レポート, 口頭発表, 著作権)	独習用ツール, ワークブック, テキストブック

(日本図書館協会・図書館利用教育委員会, 2003)

## 2.4 学修成果に結びつく情報リテラシー教育のために

「教育効果の向上のためには、教員の授業計画と図書館員の支援計画の連携を図ることが重要になる」(Branscomb, 1940)

「学生は授業の中で図書館を利用することによって図書館を理解し、利用法を修得するために、教員と図書館員が協働して授業を計画し、図書館利用を授業に組み入れることが重要になる」(Knapp, 1966)

「教員による支援は情報リテラシー関係の戦略を成功させるための極めて重要な構成要素になる」(Julienら, 2002/2003)

高い学修成果を得られる情報リテラシー教育の実現には、  
情報リテラシー教育を授業に組み入れること、  
教員と図書館員が連携すること、が重要になる

## 2.5 授業と図書館利用の関連づけ 情報探索プロセス・モデル (Kuhlthau)

高校生の情報探索行動の調査をもとに，感情，思考，行為の3つのレベルをモデル化

段階	第一段階 タスク 定義	第二段階 トピック 選択	第三段階 漠然とした 情報探し	第四段階 フォーカス 形成	第五段階 情報収集	第六段階 情報探し 終了	執筆開始
感情	不確実 不安	漠然とした 希望	恐怖・疑い フラスト レーション	明快	方向性 自信	解放感	満足 不満足
思考	漠然 -----> 明快 関心が高まる						
情報行動	関連情報 を探す -----> 適合情報 を集める 焦点が絞られる						

(Kuhlthau, 2005 / 三輪, 2003)



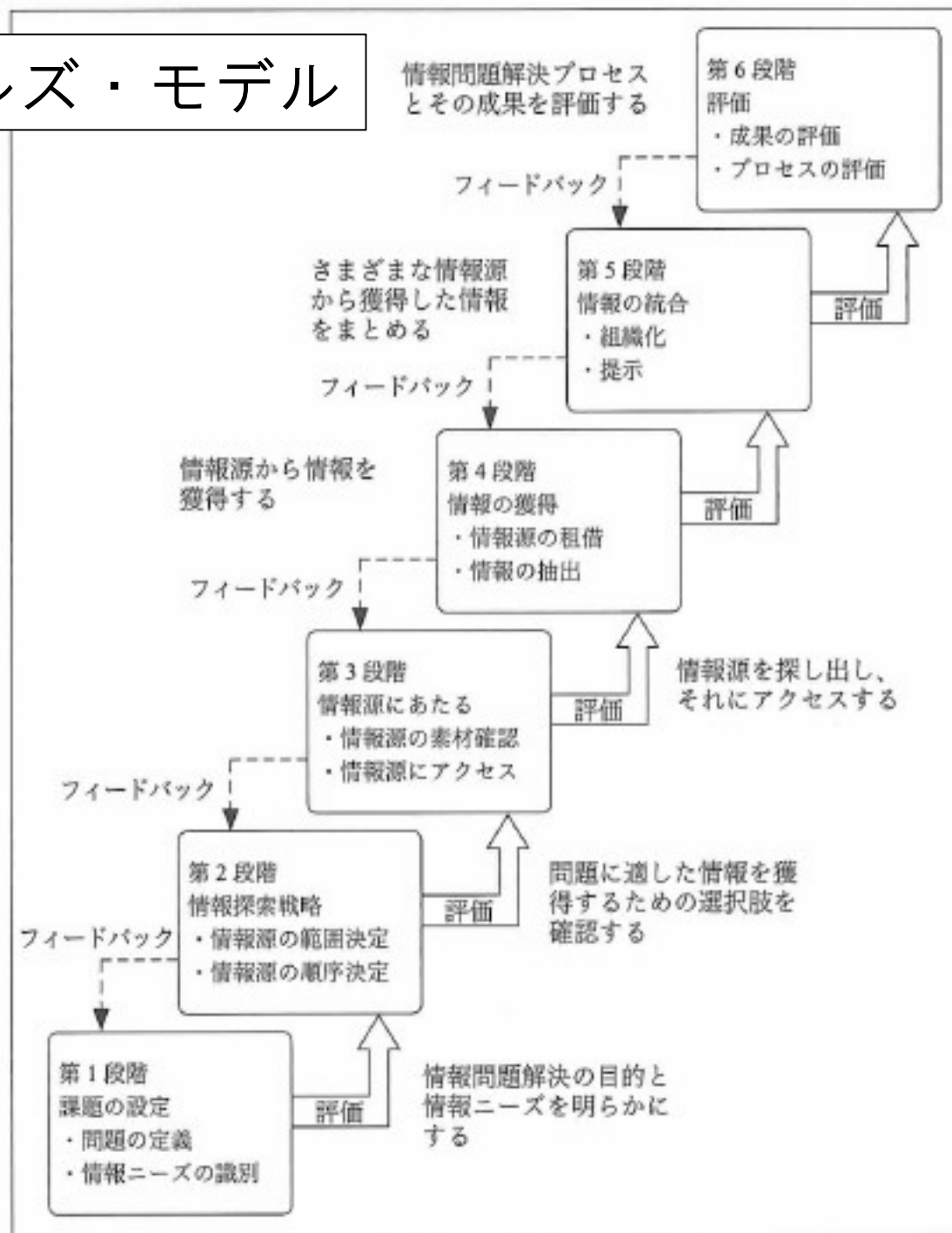
## 2.5 授業と図書館利用の関連づけ Big6スキルズ・モデル (Eisenberg)

情報問題解決プロセス：段階を順序だてて進むとは限らず、各段階を行きつ戻りつするフィードバック・プロセスをともなつて、少しずつ目的に近づく

- 1) 課題を明確にする：問題の定義，情報ニーズの識別
- 2) 情報探索の手順を考える：情報源の範囲や利用の順位を決定
- 3) 情報源の所在を確認し収集する：情報源の所在の確認とアクセス
- 4) 情報を利用する：情報源の咀嚼，情報の抽出
- 5) 情報を統合・再構成する：組織化，提示
- 6) 評価する：成果とプロセスの評価

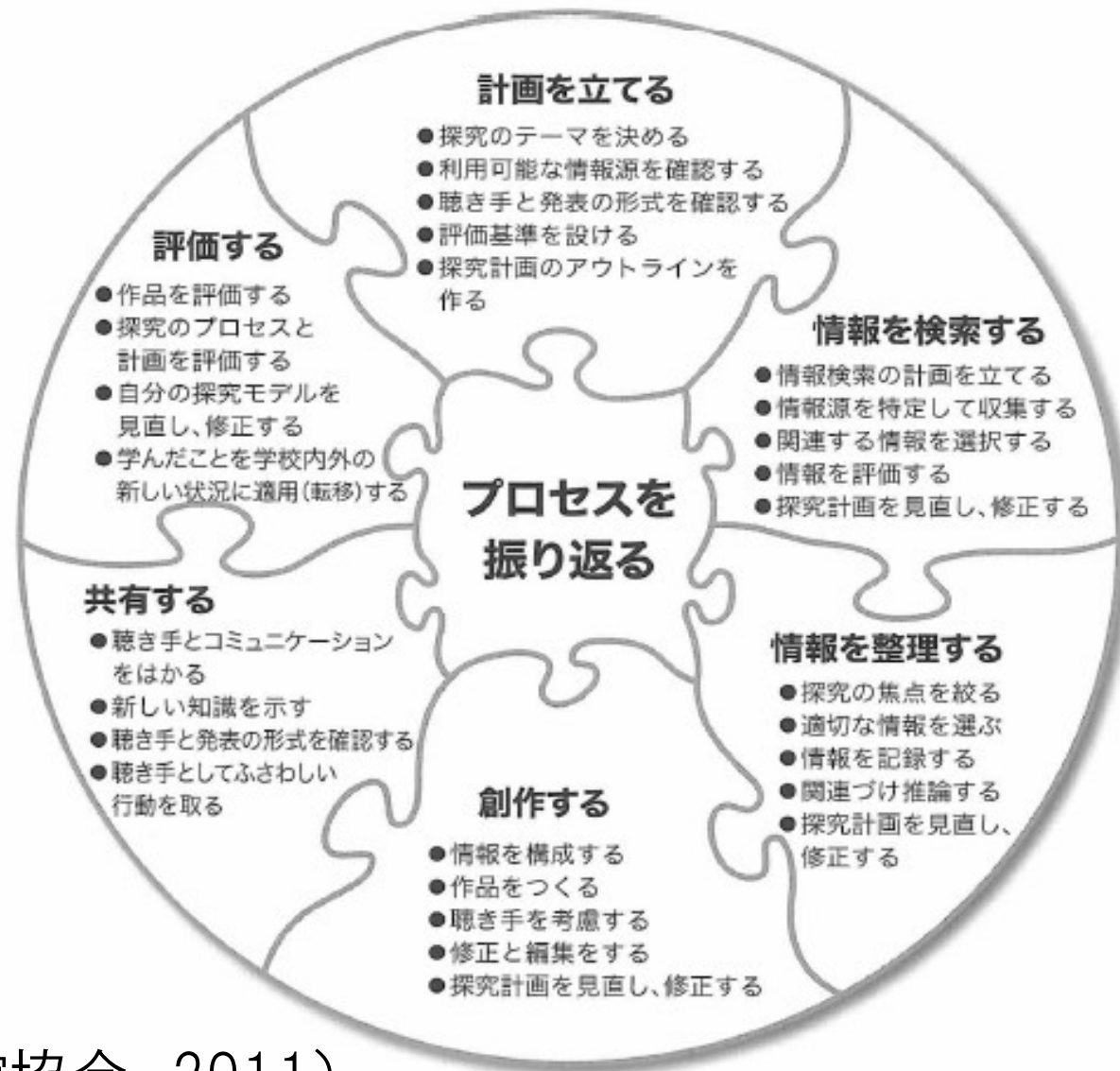
(Eisenberg, 1990 / 三輪, 2003)

# Big6スキルズ・モデル



(三輪, 2012)

## 2.5 授業と図書館利用の関連づけ カナダ・アルバータ州の探究モデル



(日本図書館協会, 2011)

## 2.5 授業と図書館利用の関連づけ プロセス・モデルの比較表

	国立大学図書館協会の 基準	SCONULの 基準	クールソの モデル	アイゼンバーグの モデル
課題のテーマを 設定する	①課題を認識する	Identity	①開始 ②選択 ④形成	①課題の設定
情報探索の手順 を考える	②情報探索を計画する	Scope Plan	③探索 ⑤収集	②情報探索戦略
情報を探索する	③情報を入手する	Gather		③情報源にあたる
情報を評価(取捨 選択)・統合する	④情報を分析、評価し、 整理・管理する	Evaluate	④情報の獲得	⑤情報の統合
	⑤情報を批判的に検討し、 知識を再構造化する	Manage		
情報を表現する	⑥情報を活用・発信し、 プロセスを省察する	Present	⑥提示	⑥評価
成果とプロセス を評価する				

(Lowe, 2005 / 長澤, 2016)



## 国内外の事例



### 3.1 情報リテラシー教育：科目関連指導とは

#### 科目関連指導(course-related instruction)

「ある学科目の学習・研究の課題において必要とされる情報探索法・整理法・表現法を学ばせる指導方式を指す。通常，教員から要請されて図書館員がその授業時間の一部を使って指導を行う。」

(日本図書館協会・図書館利用教育委員会, 2003)

教員と図書館員が，事前に打ち合わせを重ねながら科目関連指導を設計することによって，高い学修成果を得ることができる

### 3.2 科目関連指導の到達目標

- 学生が、図書館や図書館員が自分たちの学修活動を支援する機関（職員）であることを認識する。
- 学生が、情報を利用するプロセス（情報探索、情報整理、情報表現）の全体像を理解する。
- 学生が、情報を探索するのに有用な道具（目録やデータベースなど）を理解し、利用できる。

### 3.3 科目関連指導の主な学習内容

図書館の三大資源:

一次資料(図書, 学術雑誌), 二次資料, 図書館員

データベースの検索法:

OPAC(オンライン蔵書目録)

図書, 雑誌論文, 新聞記事, 百科事典・辞書類

論理演算: AND検索, OR検索, 前方一致, 後方一致

レファレンス・サービス

リクエスト制度

複写・取り寄せ(ILL)サービス

引用, 参考文献の書き方, 著作権, 剽窃(ひょうせつ)

図書館関係の用語を, 学生が理解していることを確認する



### 3.3 図書館で利用できる資料（一次資料）

紙を材料とする

主な資料(図書資料)

図書, 新聞, 雑誌, 楽譜,  
点字資料, パンフレット,  
リーフレット, 絵画, 版画, 地図,  
紙芝居, 写真, ポスター

紙以外を材料とする

主な資料(非図書資料)

マイクロフィルム, CD, レコード,  
録音テープ, DVD, ビデオ,  
映画フィルム, スライド,  
電子ジャーナル, 電子ブック,  
ネットワーク上の情報資源

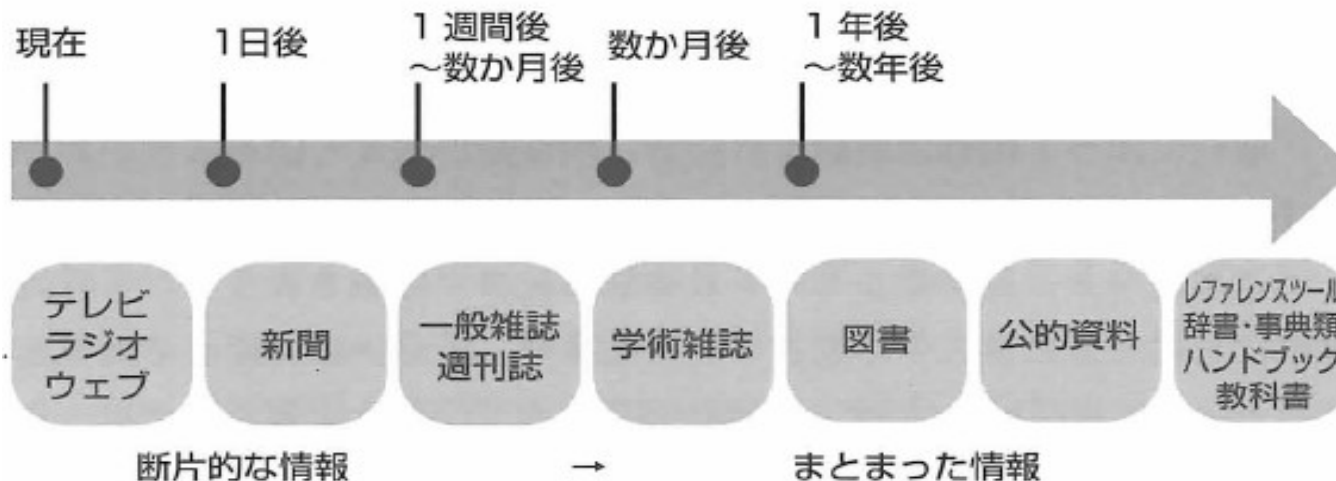


図 2-1 情報の種類と経時的な流れ<sup>1)</sup>

(市古ら, 2014)



### 3.3 主な二次資料

所属する大学に所蔵されている図書・雑誌を調べる

[三重大学附属図書館の蔵書目録\(OPAC・オパック\)\\*](#)

<http://opac.lib.mie-u.ac.jp/opac/>

基本的な事項を調べる(百科事典, 20以上の辞書・事典)\*

[Japan Knowledge](#)

全国の大学が所蔵する図書・雑誌を調べる\*

[CiNii Books](#) <https://ci.nii.ac.jp/books/>

どのような雑誌論文があるのかを調べる\*

[CiNii Articles](#) <http://ci.nii.ac.jp/>





### 3.4 科目関連指導の事例（調査日：2005.9.19.）

#### アールラムカレッジ「アールラムセミナー」（1年次）60分

13:00	図書館員の自己紹介：オフィスの場所，連絡先
13:05	図書館で利用できる情報資源： 一次資料，二次資料（参考図書），データベース， パスファインダー
13:15	索引の使用法，OPACを用いた情報探索： 検索式の作成法，取り寄せ（ILL）の方法
13:20	参考図書の書架配列と請求記号：検索結果の評価
13:23	データベースの検索法，文献の予約 OPAC（著者名検索），雑誌記事データベース 雑誌と学術雑誌の違い，文献情報管理ソフトウェア
13:38	教員によるまとめ



### 3.4 科目関連指導の設計

- ① 図書館員が、学期の始まる2-3週間前に、講義要綱から支援対象とする授業科目を抽出する。
- ② 図書館員が、①の担当教員に、図書館員による支援の必要性を確認し、実施日を決定する。
- ③ 図書館員は、授業科目のシラバスを読んだり、教員と打ち合わせをしたりして、課題のテーマについて理解を深め、これに関する一次資料や 二次資料，データベースを検討してパス・ファインダーを作成し，Web上で公開する。
- ④ 指導当日には，図書館員が，パス・ファインダーを示しながら，情報の探索法，情報の入手法について説明する。



### 3.4 科目関連指導の実施の要点

- **課題探求型の課題** (レポートやプレゼンテーション) を与える授業科目を重点的に支援する。
- 「**教える好機** (teachable moment = テーマを設定した直後)」に支援を実施する。
- 一般的なテーマではなく、授業科目で与えられた**課題のテーマ**に関する支援を実施する。
- 各授業科目に“**カスタマイズ**”した支援をデザインする。
- 同じ教員を繰り返し担当し(**MYライブラリアン**)、対象となる授業科目の学習内容に詳しくなる。
- 科目関連指導で学修した内容、図書館や図書館員の教育的役割について、**教員が授業のなかで繰り返し学生に伝える**。



### 3.4 科目関連指導：教員にとっての利点

- ①科目関連指導を受けた学生は質の良い課題を提出するので、成績評価の作業が楽になった。
- ②専門分野に関する新しい知識を入手し続けるには多大な労力が必要になる。科目関連指導によって、教員も、専門分野の最新動向を知ることができる。
- ③紹介されたデータベースの中で、今回初めて知ったデータベースがあった。今後、活用したい。

①②アールラム・カレッジの教員，③三重大大学の教員

(Hardesty et al., 2003)

### 3.5 「山口と世界」 (山口大学初年次科目) の授業計画 担当：林透先生



探究型の課題：

「みんなで考える大学設置構想 in Yamaguchi」

第1～3回 講義「大学とは何か」

第4回 企画書の検討, 設置場所の決定, 図書館ガイダンス

第5回 企画書の提案

第6回 発表用のポスター作成準備

第7回 発表用ポスター案の提示と調整

第8回 ポスターセッション・プレゼンテーション・投票・表彰

(林, 2019)

### 3.5 「山口と世界」の探究型の課題（2016年度）



探究型の課題：

「みんなで考える大学設置構想 in Yamaguchi」

第1～3回 講義「大学とは何か」

教員による事例の提示  
読書課題：図書2冊

第4回 企画書の検討

山口大学の統計情報  
図書館ガイダンス

第5回 企画書の提案

第6回 発表用のポスター作成準備

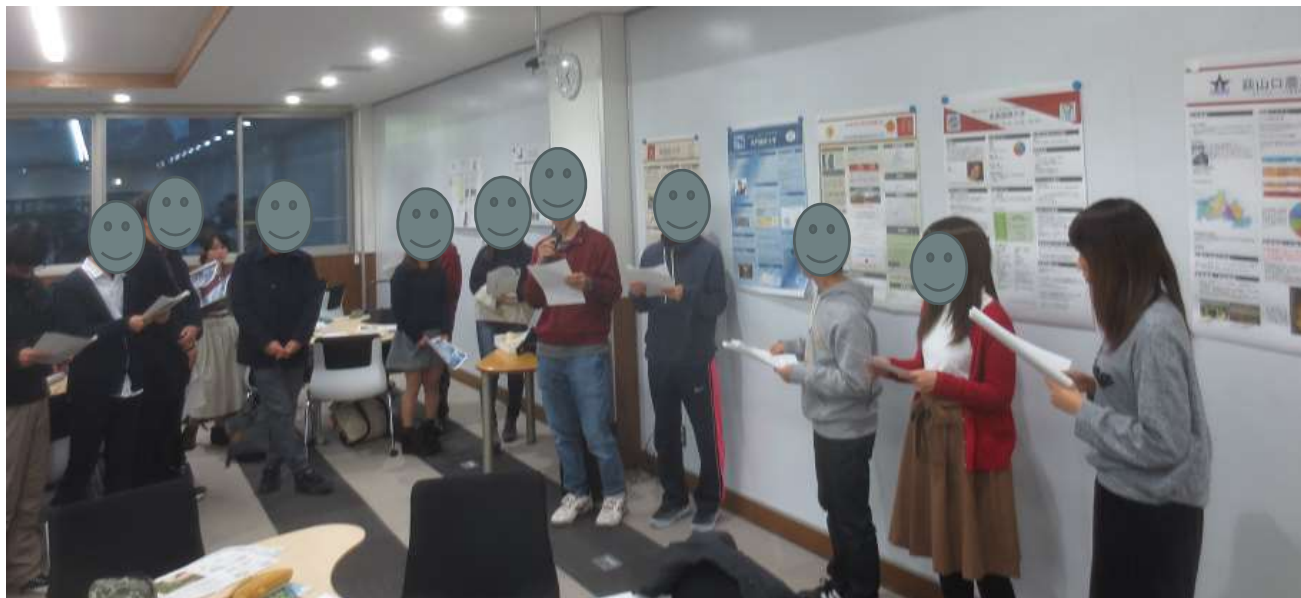
第7回 発表用ポスター案の提示と調整

第8回 ポスターセッション・プレゼンテーション・投票・表彰





第4回 企画書の検討・図書館ガイダンス @総合図書館



写真提供：林透先生

第8回 ポスターセッションの様子 @総合図書館ラーニングコモンズ



### 「みんなで考える大学設置構想 in Yamaguchi」企画書

グループ名 \_\_\_\_\_  
 リーダー \_\_\_\_\_

#### 【大学設置の背景・環境】

- 1 設置場所の市町名
- 2 設置場所の地理情報（規模、歴史、特徴など）
- 3 設置場所を選んだ理由

#### 【大学設置構想】

- 2-1 大学名
- 2-2 建学の精神（ポリシー）
- 2-3 学長の氏名と学長メッセージ
- 2-4 大学の組織構成（学部名や研究科名、学生数）
- 2-5 設置場所（ロケーション）
- 2-6 入試システム（選抜方法、受験科目など）
- 2-7 授業料
- 2-8 教育システム
  - ① 人材養成目標（どのような人材を育成するのか）
  - ② カリキュラムの特徴
  - ③ 正課外活動の特徴
- 2-9 就職支援
- 2-10 キャンパスの魅力
- 2-11 学習環境、研究環境
- 2-12 地域貢献の取組
- 2-13 その他

資料提供：林透先生，山口大学総合図書館

#### 地名を調べる

##### ◆ 辞書で調べる

- \* 日本歴史地名系大系 36 / 平凡社編, 1980. (総2F:参考, 郷土資料, 総:3号館1F)
- 一 地名項目はもちろん、文献解題や地図類、行政区画変遷・石高一覧なども収録。  
Japanknowledgeで検索可。
- 25 / 「角川日本地名大辞典」編集委員会編。

### どんなところ？ 山口県

山口県について、どれくらい知っていますか？県外出身者の方はもちろん、山口県出身の方も、意外と知らないことがたくさんあるかもしれません。図書館資料を使って、山口県について調べる方法をご紹介します。

##### ◆ 書架に行って探す

総合図書館には、山口県に関する資料を集めたコーナーがあります。これから紹介する図書以外にも、たくさんの資料があるので直接書架に行ってみましょう。

1F:文化交流スペース	山口ガイド	山口県出身の著名な人物や、明治維新などに関する資料があります。比較的読みやすい資料が多く、貸出もできます。
2F:閲覧スペース	郷土資料	県史や県内の市町村史、歴史や文化について書かれた学術性の高い資料や、統計類があります。禁帯出です。

#### 概要を知る

- ◆ 人口や面積、地理、産業など、山口県の概要を調べるには事典がおすすめです。
  - \* 山口県百科事典 / 山口県教育委員会編, 1982. (291.77/Y61 総:2F郷土資料)
  - 一 山口県の事象・事態を体系的に解説。50音順に5,800余りの項目を収録。
  - \* 山口県の統計百年 / 山口県総務部統計課編, 1968. (059.17/Y61 総:2F郷土資料)
  - 一 明治維新からの県勢100年間の推移を各種統計で追う。解説編では県の風土や歴史などの概要を知ることができる。
- Japanknowledge (<http://japanknowledge.com/library/>)
  - 一 複数の辞書や事典を一括で検索できるデータベース。
  - 図書館 WEB ページ「電子資料をさがす」>「データベース一覧」からアクセスし、「山口県」と入力し検索すると、大百科全書や日本国語大辞典などで基本情報が確認できる。
- ◆ もっと詳しく調べるには・・・
  - \* 山口県史 / 山口県史編纂委員会編, 1982. (930.92/Y61 総:2F郷土資料)
  - 一 2F郷土資料)
  - 1000人を収録。
  - 2007.
  - 掲載。
  - 県内出身者の伝記や作る場合もいろいろありますので

### 3.5 授業改善のPDCA

教員，図書館員，調査者による  
課題の検討

授業目標（重点目標）  
「資料を適切に収集し、適切に分析することができる」

事後の  
振り返り

授業  
デザイン

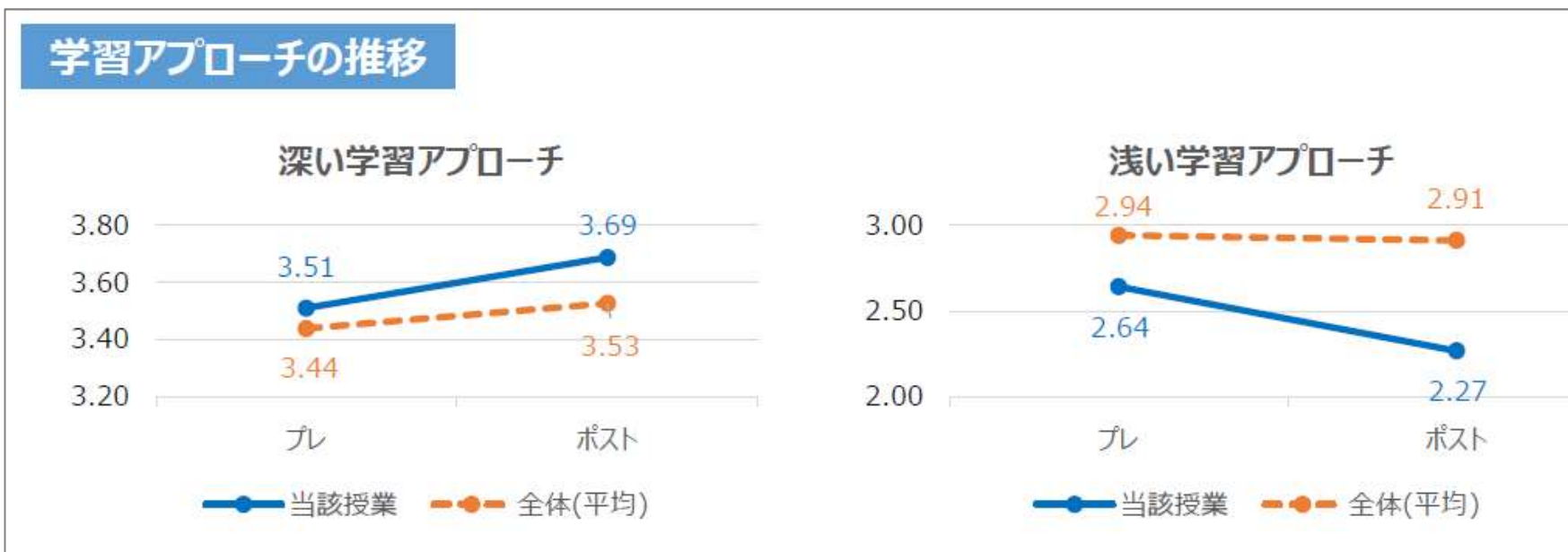
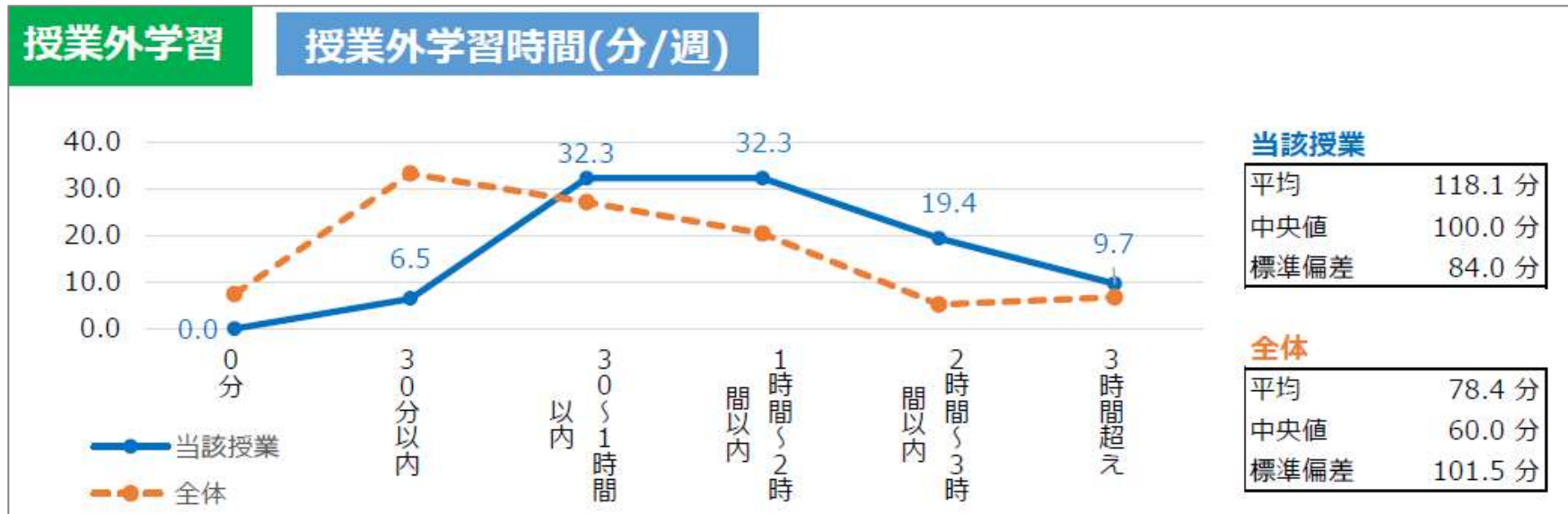
- 図書館ガイダンスを組み入れる
- 提出課題に出典の明記を必須とする
- 情報利用の重要性を教員が繰り返し伝える
- 歴史的な背景についての理解を促す
- ラーニングコモンズで授業をする
- 教室外で集まって作業をすることの重要性を伝える
- 教員の説明を減らし、グループワークの時間を増やす
- 楽しめる要素を組み入れる

- 信頼性の高い情報資源を用いていない
  - 教員が配布した資料だけを使用している
  - 情報の探し方がわからない学生もいる
  - グループの課題を分担して、自宅でひとりで作業をしている
- フォトボイス  
調査

授業  
運営

### 3.5 学習の成果：プレ・ポストテスト

(提供：林透先生)





## 3.5 担当教員による評価

### 学修成果についての評価

- 信頼できる情報資源を用いて課題を完成させることができている。
- 大学の設置場所について、歴史を含めて背景的な説明に厚みが増し、大学と地域を融合させるという点で内容に深みが増している。

### 授業デザインについての評価

- 教員による説明を減らしたことで、授業時間内にグループで作業する時間が増え、教員が各グループにコメントする時間も増えた。
- 楽しめる要素を組み入れたことが、課題の取り組みに影響を与えた。

ドラフト会議形式の導入，探索した情報を記録するワークシート

- 図書館ガイダンスでの，図書館員によるプレゼンテーションの仕方も，ワークシートも，より親しみやすいものになった。



### 3.5 授業外学修を促進する授業のデザイン

- 課題を提出する締切を複数回設ける
- 課題について個別にコメントを与える  
褒めをベースに，必要に応じて，情報提供，提案，発破
- 全体に講義することよりも，個々のグループへの対応に十分な時間をかける
- Good Practiceや前年度に提出された課題などによって，ベンチマークを示す
- 信頼できる情報資源を活用する必要性を伝える  
教員の補足説明で図書館ガイダンスの内容を定着させる  
使用した情報資源を典拠として課題に示す必要性を伝える
- 授業外学修でも利用できる学修場所で授業をする



# ラーニングコモンズ



## 4.1 ラーニングコモンズなどによる 学習支援環境の整備

- アクティブラーニングを導入した授業  
知識の獲得＋知識の活用＋新しい知の創出
- 他の学生との議論，多様な情報資源の活用が重要に  
→ラーニングコモンズは，これを効果的かつ効率的に  
支援できる(授業外の)学習支援環境
- コモンズ＝共有地
- ラーニングコモンズ＝多様な利用形態や学習スタイル  
に対応するために，学習支援サービス，情報資源，設備  
をワンストップで総合的に利用できる滞在型の学習空間

アクティブラーニングスペースの設置

89大学(2009) → 453大学(2016)

文部科学省「学術情報基盤実態調査」\*





## 4.2 ラーニングコモンズの主な構成要素

### 施設・設備(space)

協同的な学習のスペース: 4~12名の利用者を想定した多様な学習スペース, プロジェクタとホワイトボード, 囲いのあるスペースと開かれたスペース, LAN環境, 可動式の家具など

電子機器を備えた教室: 教室としての利用など

ミーティング, セミナー, レセプション, プログラム, 文化行事のためのスペース: アイディアの交換, 相互交流など

カフェ・ラウンジ: 飲食ができること, 快適で座り心地のよい椅子など

### 資料・情報(stock)

コンピュータ・ワークステーション・クラスタ: 資料を広げる十分なスペースのある配置

### スタッフ(staff)

サービス・デスク: レファレンス調査, コンピュータやソフトウェアの操作の補助など

プレゼンテーションのための支援センター: 画像や音響の編集システム, 大判ポスターの印刷機など

教育開発のためのインストラクショナル・テクノロジー・センター: ソフトウェアの操作の補助, テクノロジーを用いた授業デザインや授業運営の支援など

アカデミック・サポート部門: ラインティング・センター, 学生支援センターなど

## 4.3 三重大大学附属図書館 3F

環境・情報科学館(2階+3階)と  
附属図書館(1階+2階+3階)を  
一体運用

- 教室内の学びの場
- 教室外の学びの場

3F  
PBL演習室 ●  
ティーチング  
commons

2F  
ラーニング  
commons ●



環境・情報科学館



3F  
Silentエリア ●



2F  
Quietエリア ●



1F  
Commonsエリア ●



附属図書館

## 4.3 附属図書館の閲覧室

● Silent  
エリア  
(3階)



● Commons  
エリア  
(1階)

● Quiet  
エリア  
(2階)



● Quiet  
エリア  
(2階)

● グループで協同的に学習する利用者から、静かに学習する利用者まで、多様な学習形態に幅広く対応した学びの場

## 4.3 環境・情報科学館（3階）

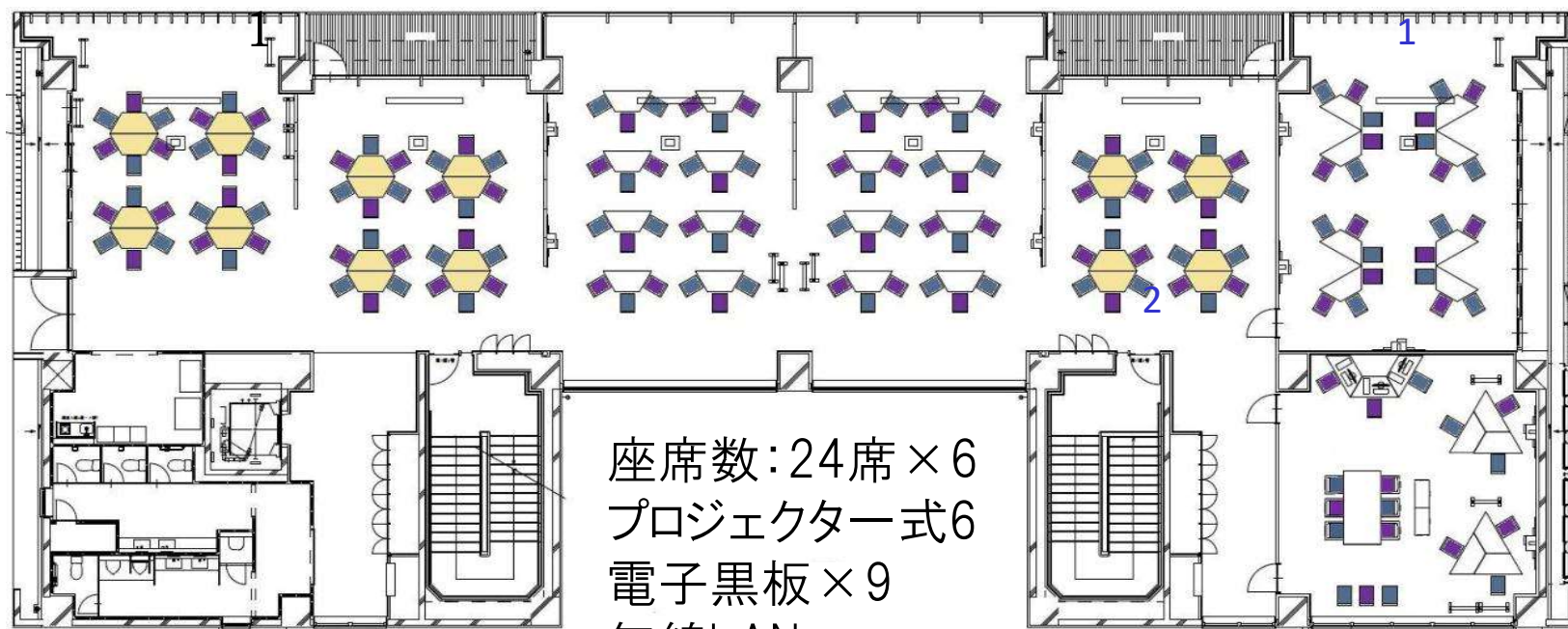
PBL演習室 6

5

4

3

2

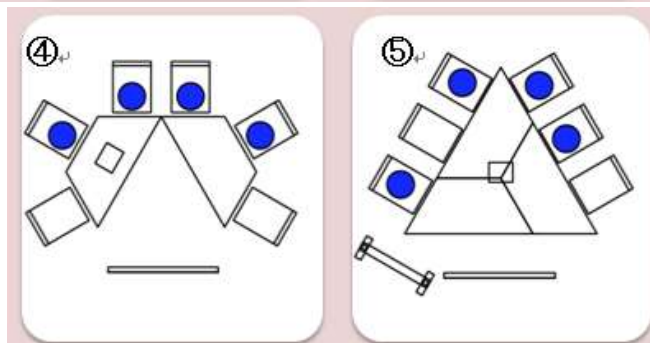
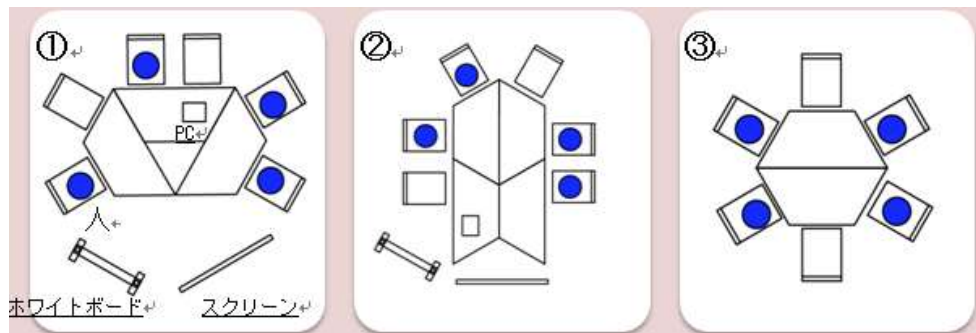


座席数:24席×6  
プロジェクター式6  
電子黒板×9  
無線LAN

ティーチングcommons

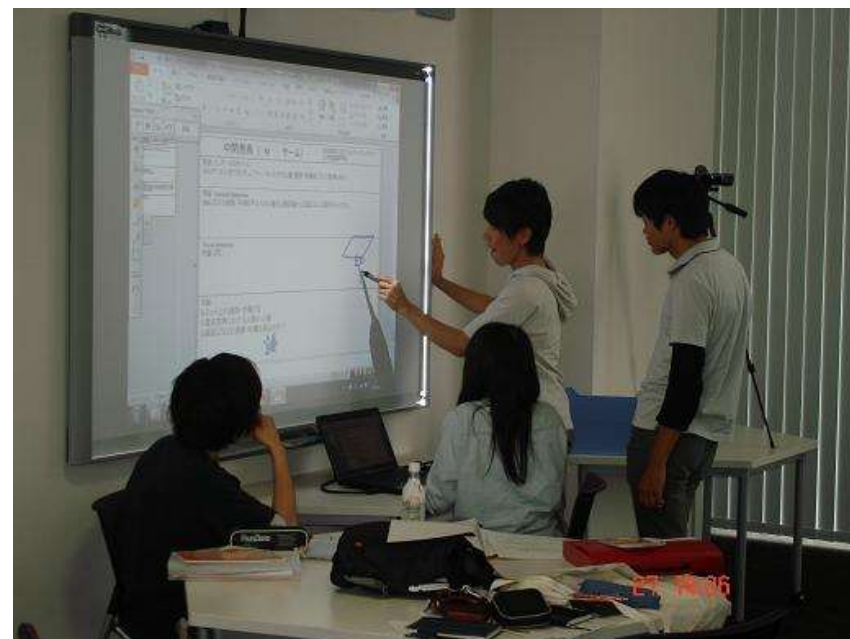
- 廊下側の壁がないオープンスクール形式の教室空間
- 可動式の壁によって、教室のサイズを変更できる
- 可動式のテーブルと椅子により、空間を自由にデザインできる
- 壁面に電子黒板を備えた教室がある

## 4.3 環境・情報科学館（3階）：PBL演習室

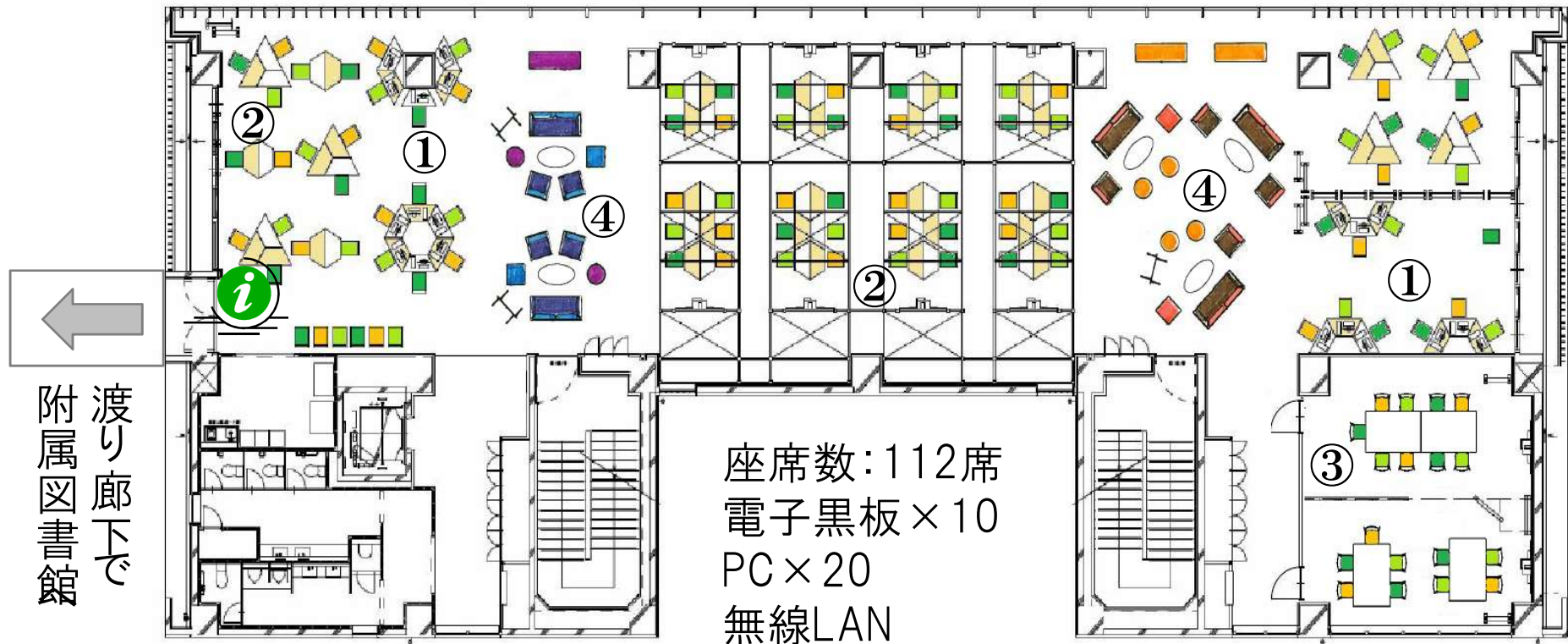


作成：  
長橋祐太  
(建築学科  
2014年卒業)

テーブルと椅子のレイアウト・パターン



## 4.3 環境・情報科学館（2階）：ラーニングcommons



- PCステーション(①), グループ学習のスペース(②), グループ学習室(③), ソーシャル・スペース(④)からなる
- テーブル, 椅子, ホワイトボードは可動式で, 利用者自身が自由に空間をデザインできる
- 学習エリアについて, オープンなスペースと囲いのあるスペースの両方を整備している

## 4.3 環境・情報科学館（2階）：ラーニングcommons

● オープンな学習エリアとPCステーション



● ソーシャル・スペース



● フレームのある学習エリア



● 囲いのある  
学習エリア

## 4.4 多様な情報資源と利用者の結びつけ

### コンピュータやネットワーク環境の整備

目的: データベースや各種ソフトウェアの活用  
据置型のPC, 持込用PCを利用できるデスク,  
貸出用PC, PCの自動貸出機LAN(有線, 無線),  
スキャナ機能付のプリンタ

### パスファインダーの提供\*

情報資源への効果的なアクセスを支援

### 図書の設定

学習法, レポート作成,  
プレゼンテーション, 辞書

### 人的支援

学生アシスタント, 図書館員, 教員  
学習相談(情報探索, レポート作成),  
利用案内, PCや機器操作のサポート





## 4.5 活用：授業，ゼミ，ガイダンス

『すだち』No. 97, 2013  
(徳島大学附属図書館)



↑「スタディレスキューWeeeeeek」(徳島大学)

図書館ガイダンス(三重大学)↓



ゼミ(兵庫教育大学)

<https://www.hyogo-u.ac.jp/>



## 4.5 活用：文化・学術イベント

学生や教職員による文化行事やセミナー  
授業の課題や課外活動の成果発表

<https://www.hyogo-u.ac.jp/>



附属図書館のオープンテラスで開催された  
ランチタイムコンサート(兵庫教育大学)

写真部による写真展(三重大学)



↑ <http://www.lib.mie-u.ac.jp/>  
↓ <http://www.chiba-u.ac.jp/>



学期中の火・金12:10-12:40に  
開催されるランチオンセミナー  
(千葉大学) ↑

## 4.6 ファブラボ

「fabrication laboratory」の略称で、三次元プリンターや三次元スキャナー、切断や旋盤などの工作機械を備えた、誰でも利用できる工房のこと（デジタル大辞泉）



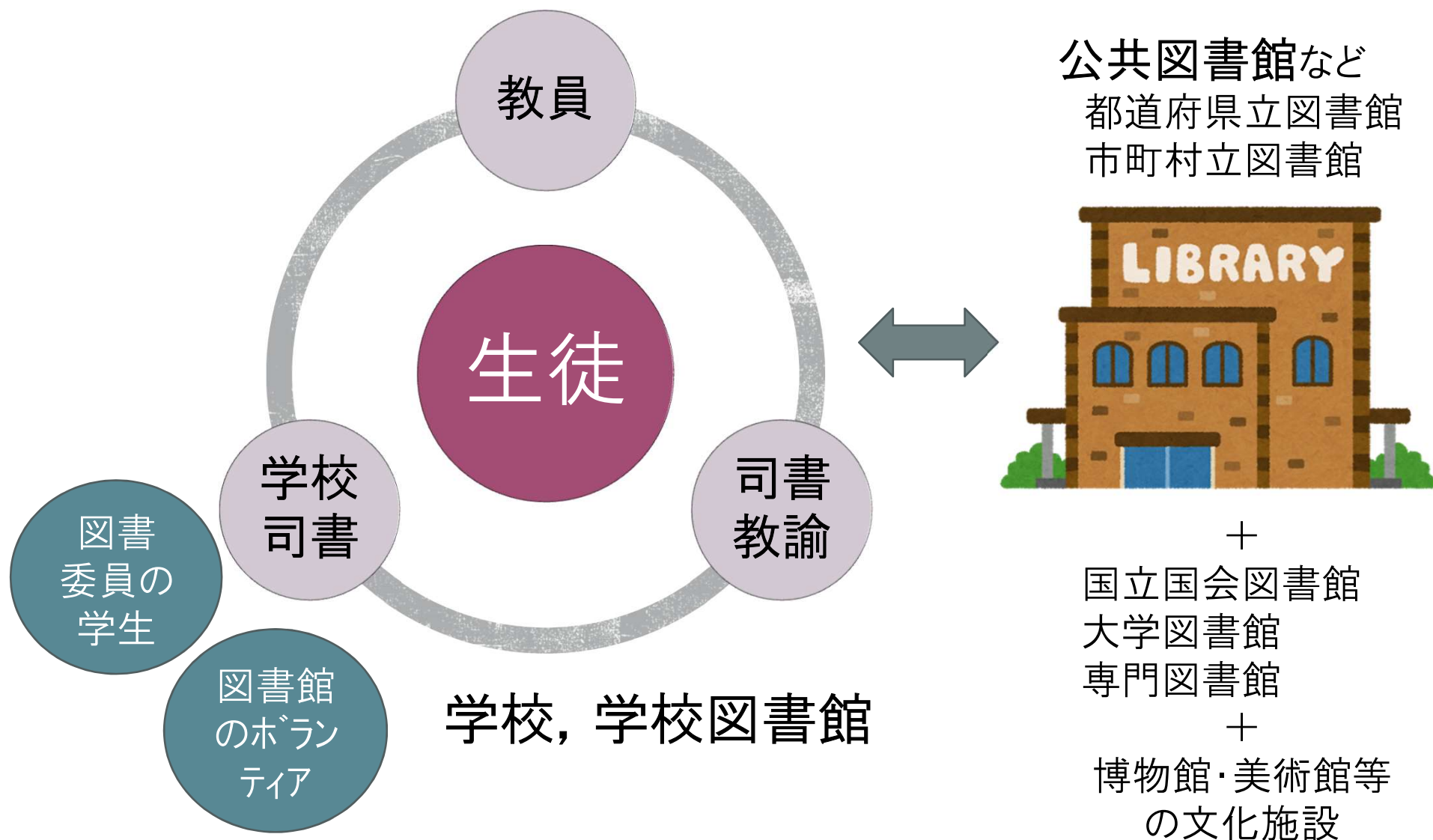
ヘルシンキ市立図書館 Oddi  
<https://www.oodihelsinki.fi/>



# 高校の教育と図書館



## 5.1 生徒を支援する図書館の体制



## 5.1 学校司書・司書教諭\*

司書教諭 学校図書館の運営と、これを基礎に児童生徒と教員一人一人の教授学習過程で発生する多種多様な資料や情報要求に応えることによって、教育と学習活動を支援する。

学校図書館が教科学習等に利用されるように支援する (堀川, 2010)

### ①資料や情報, 機器の利用

- 学習内容を深めたり広げたりして学びを豊かにする
- 調べものをしたり調べ学習(探究型学習)を実践したりする
- 授業研究をしたり授業計画を立てたりする

### ②学校図書館の施設や設備の利用

### ③担当者の支援や指導のための利用(依頼ベース)

- 学びの技術となる情報リテラシーを指導する
- ブックトークを実施したり, レファレンスサービスを提供したりする
- 授業支援のツールとして, 資料のリストやパスファインダーを作成する
- 教師, 司書教諭, 学校司書がチーム・ティーチングをする

## 5.2 公共図書館と学校の連携

### 公共図書館→学校・学校図書館

図書館員がクラスごとなどに、公共図書館の利用方法を説明読み聞かせ、ストーリーテリング、ブックトーク  
団体貸出として、学級に図書を貸し出すこともできる。  
(一度に30冊から50冊、貸出期間は3か月程度)

### 学校→公共図書館

授業の一環として、クラス単位で公共図書館の見学や訪問  
→教員は、事前に公共図書館の担当者と話し合い、  
学習目的、児童生徒の学習歴などを伝え、当日の  
学習計画を立てる

## 5.2 公共図書館と学校の連携

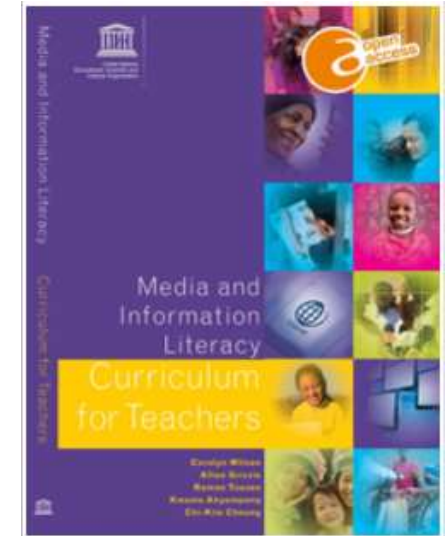
表4 高等学校との連携状況（利用実績）とその内容

	施設数 (%)		施設数 (%)
(1) 部活動の練習・日常活動	31 (1.5)	(15) 異文化理解に関する学習	21 (1.0)
(2) 部活動の発表会	24 (1.2)	(16) 著作権や情報倫理に関する学習	7 (0.3)
(3) インターンシップ	688 (34.1)	(17) 郷土に関する学習	77 (3.8)
(4) 遠足・社会見学	116 (5.7)	(18) 食育や健康に関する学習	41 (2.0)
(5) 修学旅行（事前学習）	65 (3.2)	(19) 人権に関する学習	28 (1.4)
(6) 修学旅行（本番）	3 (0.1)	(20) 環境に関する学習	35 (1.7)
(7) 避難訓練・防災訓練	7 (0.3)	(21) 国語に関する学習	68 (3.4)
(8) 文化祭（事前学習）	39 (1.9)	(22) 政治・経済に関する学習	26 (1.3)
(9) 野外活動（観察会等も含む）	4 (0.2)	(23) 地理・歴史に関する学習	38 (1.9)
(10) 鑑賞会（伝統芸能や音楽等）	6 (0.3)	(24) 理科に関する学習	32 (1.6)
(11) 生徒会役員会	5 (0.2)	(25) 数学に関する学習	11 (0.5)
(12) 複数校の生徒会交流会	11 (0.5)	(26) 芸術に関する学習	31 (1.5)
(13) ボランティア活動	212 (10.5)	(27) 外国語に関する学習	16 (0.8)
(14) 学校の記念行事等の式典	2 (0.1)		



### 5.3 教師に求められる能力

- MILに必要な政策や展望に敏感になる。
- 学校のカリキュラムにメディア・情報リテラシーがどのように役立つのかを理解したり、メディアや情報源を批判的に評価したりする。
- 図書館，公文書館，インターネットなどの情報提供者について知っておく。
- 学生のメディア・情報リテラシーの向上に必要な教授方法を獲得する。
- メディア・情報リテラシーを教える授業方法について理解しそのスキルを獲得する。
- 教師自身の生涯学習や専門職開発のために，自身のメディア・情報リテラシーを向上させる。





日本図書館協会

# 第105回 全国図書館大会（三重大会）

開催期間 **2019**年**11**月**21**日（木）～**22**日（金）

場所 三重県総合文化センター

大会テーマ

「令和の新時代を拓く図書館：  
常若（とこわか）のくにからの発信」

学校図書館の分科会もあります！

配布資料もご覧ください



# 11月22日（金）午前 プログラム（抜粋）



## 第3分科会 学校図書館（1） 午前

テーマ：学校図書館の役割を踏まえた授業等への関わり方

改訂された学習指導要領においては、学校図書館を生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に生かすこととされている。では、実際にどのように取り組んでいくべきか。

様々な実践をされている講師による基調報告と、三重県内の実践報告を通じ、現在学校図書館に求められている役割と、実際の関わり方を考える。

基調報告：木下通子（埼玉県立浦和第一女子高等学校担当部長兼主任司書）

教師へのサービスから広がる授業連携

報告：山下知里（三重県立伊勢高等学校主任（学校司書））

「見える化」で学校図書館活用をもっとアクティブに提案する

ディスカッション：ファシリテーター

石丸隆彦（特定非営利活動法人Mブリッジ／キャリアコンサルタント）

中川絵美子（特定非営利活動法人Mブリッジ／認定ワークショップデザイナー）

気づきを活かすグループディスカッション

# 11月22日（金）午後 プログラム（抜粋）



## 第3分科会 学校図書館（2） 午後

テーマ：公共図書館、自治体との連携

学校図書館が授業等に関わろうとする際には、自館の蔵書を充実させることが大前提だが、それに加え、都道府県・市町村の公共図書館と連携して相互貸借等によって生徒・教職員のニーズに応えることも重要となる。また、地域の課題解決に生徒が取り組む際には、自治体の各部署との連携も求められる。

三重県内の実践報告を通じ、参加者ととともに公共図書館と学校図書館の連携を考える。

報告：井戸本吉紀（三重県立津高等学校主査（学校司書））

なんでも相談してもらえる学校図書館を目指して一県立図書館等との連携

報告：増田典子（三重県立南伊勢高等学校度会校舎主任（学校司書））

地域とつながる学校図書館－町役場との連携－

ディスカッション：ファシリテーター

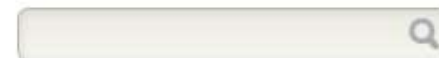
石丸隆彦（特定非営利活動法人Mブリッジ／キャリアコンサルタント）

中川絵美子（特定非営利活動法人Mブリッジ／認定ワークショップデザイナー）

気づきを活かすグループディスカッション

# 第105回 全国図書館大会 三重大会

三重県総合文化センター 令和元年11月21日(木)～22日(金)



ホーム

ごあいさつ

大会の概要

記念講演

分科会一覧

展示会一覧

大会テーマ  
令和の新時代を拓く図書館  
とこわか  
～常若のくにからの発信～

→ もっと詳しく

## ■お知らせ

2019年8月1日  
1日目の記念講演のみの参加について

2019年7月20日  
●参加受付について

大会参加申込

第105回 全国図書館大会 参加申込

参加申込, 受付中! <http://105th-mietaikai.info/>

## 主な参考文献①

- Association of College and Research Libraries (ACRL). “Framework for Information Literacy for Higher Education.” 2015. <http://www.ala.org/acrl/standards/ilframework>, (参照:2015-06-10)
- アジア太平洋メディア情報リテラシー教育センター. 「メディア情報リテラシー5原則」 <http://amilec.org/?key=jo5snujoh-136&lang=english>(参照:2019-07-07)
- Branscomb, Harvie. *Teaching with Books*. Chicago, American Library Association and Association of American Colleges, 1940, 239p.
- 中央教育審議会「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて」(答申). 2012.8.28.
- 中央教育審議会. 2040年に向けた高等教育のグランドデザイン(答申). 2018.11.26.
- Eisenberg, M. B. and Berkowitz, R. E. *Information Problem Solving*. Norwood, Ablex, 1990, 156p.
- FM推進連絡協議会編. “知識創造とワークプレイス,” 総解説:ファシリティマネジメント. 追補版, 日本経済新聞出版社, 2009, p.95-123.
- Hardesty, Larry; Hastreiter, Jamie; Henderson, David eds. *Bibliographic Instruction in Practice: A Tribute to the Legacy of Evan Ira Farber*. Pierian Press, 1993, 157p.
- 林幸克「高等学校と公共図書館の連携に関する一考察」*図書館の譜:明治大学図書館紀要*, No.22, 2018, p.53-71.

## 主な参考文献②

- 林透「教員・職員・研究者協働によるAL型授業改善に関する実践的研究」大学教育(山口大学 大学教育機構), No.16, 2019, <http://www.oue.yamaguchi-u.ac.jp/JoHE16.pdf> (参照:2019-07-08)
- 堀川照代『新訂 学習指導と学校図書館』放送大学教育振興会, 2010, 282p.
- 市古みどり, 上岡真紀子, 保坂睦(2014).『資料検索入門:レポート・論文を書くために』慶應義塾大学出版会.
- Julien, Heidi and Given, Lisa M. “Faculty-Librarian Relationships in the Information Literacy Context,” *The Canadian Journal of Information and Library Science*. Vol.27, No.3, 2002/2003, p.65-87.
- 加藤信哉, 小山憲司『ラーニング・コモンズ:大学図書館の新しい形』勁草書房, 2012, 288p.
- Knapp, Patricia B. *The Monteith College Library Experiment*. New York, Scarecrow Press, 1966, 293p.
- 国立大学図書館協会教育学習支援検討特別委員会. 高等教育のための情報リテラシー基準, 2015年版. 2015.3, 26p.  
<https://www.janul.jp/j/projects/sftl/sftl201503b.pdf>, (参照:2019-08-07)
- Kuhlthau, Carol. “Kuhlthau’s Information Search Process,” *Theories of Information Behavior*. ASIS&T, 2005, p.230-234.

## 主な参考文献③

- Lowe, Carrie A.; Eisenberg, Michael B. “Big6 Skills for Information Literacy,” *Theories of Information Behavior*. ASIS&T, 2005, p.63-68.
- 松下佳代『<新しい能力>は教育を変えるか』ミネルヴァ書房, 2010, 219p.
- 松下佳代編著『ディープ・アクティブラーニング: 大学授業を深化させるために』勁草書房. 2015, 274p.
- McMullen, S. (2008). US academic libraries. PEB Exchange. 1-6.
- 三輪眞木子『情報検索のスキル: 未知の問題をどう解くか』中央公論社, 2003, 214p.(中公新書, 1714)
- 溝上慎一「学修成果の可視化から見える学生像」『大学教育学会第37回大会発表要旨集録』2015, p.60-61.(公開シンポジウムの発表スライドも参照している。)
- 溝上慎一『高等学校におけるアクティブラーニング: 理論編』東信堂, 2016, 128p.(アクティブラーニング・シリーズ, 4)
- 長澤多代「アールム・カレッジの図書館が実施する学習・教育支援に関するケース・スタディ」『Library and Information Science』No.57, 2007, p.33-50.
- 長澤多代「大学教育における教員と図書館員の連携を促すカスタマイズ型の学習支援: アールム・カレッジのケース・スタディをもとに」『日本図書館情報学会誌』No.192, 2012, p.185-201.
- 長澤多代「問題解決や課題探究のための情報リテラシー教育」『アクティブラーニングとしてのPBLと探究的な学習』東信堂, 2016, p.24-45.(アクティブラーニング・シリーズ, 2)



## 主な参考文献④

- 日本図書館協会・利用教育委員会『図書館利用教育ハンドブック:大学図書館版』日本図書館協会, 2003, 209p.
- 日本図書館協会・図書館利用教育委員会『問いをつくるスパイラル:考えることから探究学習をはじめよう!』日本図書館協会, 2011, p.118.
- 日本図書館協会・図書館利用教育委員会『図書館利用教育ガイドライン合冊版:図書館における情報リテラシー支援サービスのために』日本図書館協会, 2001, 81p.
- 野末俊比古. 「情報リテラシー」『図書館情報学ハンドブック』第2版, 丸善, 1999, p.349-366.
- 土持ゲーリー法一“中教審答申を授業改善に繋げる1:能動的学修を促すファカルティ・ディベロップメント,”アルカディア学報, No.499, 2012.  
<https://shidaikyo.or.jp/riihe/research/arcadia/0499.html>, (参照:2015-06-10)
- UNESCO. Media and information literacy curriculum for teachers (教師のためのメディア・情報リテラシーカリキュラム). 2014,  
<http://www.unesco.org/new/en/communication-and-information/resources/publications-and-communication-materials/publications/full-list/media-and-information-literacy-curriculum-for-teachers/>(参照:2019-07-07)
- 和田正人ほか. 「ユネスコ『教師のためのメディア情報リテラシー教育カリキュラム』ガイド」東京学芸大学紀要, 総合教育科学系, 64(2), 2013, p.299-325.